

【平成24年度 北海道旭川東高等学校 学校評議員会の報告】

○第1回学校評議員会

期 日 : 平成24年6月26日(火) 18:30~20:00

会 場 : 北海道旭川東高等学校 校長室

出席者 : 学校評議員4名、校長、全定教頭、事務長 8名



今年度は5名の方々に学校評議員をお願いし、年3回の会合を通して様々なご意見やご要望をお伺いします。

第1回目の本会議では、「本校の現状と学校経営上の課題」を校長が説明、続いて全定教頭がそれぞれの課程の特色について説明をしました。

意見交換では、主に進路や学習について貴重なご意見をいただきました。

〈校長からの説明：「3つの事業」について〉

- (1) 次年度は全日が110周年、定時が90周年を迎え、現在周年行事の準備を進めていることについて
- (2) 学校祭明けから大規模補修工事が始めることについて
- (3) 旭東奨学会の今後の方向性について

〈学校全般についての意見交換〉

- ・ 様々な教育活動で、先生方のこれまでのご苦勞が大きな成果となって表れてきている。それが先生方の自信にも繋がり、学校全体の活力を生み出している。
- ・ 生徒には「主体的に生きる力」を身につけてもらいたい。マニュアルどおりの人間ではなく、個々の力を伸ばし「光る人間」になって欲しい。
- ・ 現代には人の五感を奪うような環境があり、かつ何でもあてがわれるような生活がある。自分自身で感じて、自分の意志でやり遂げる人へと成長して欲しい。



### 〈学習・進学面について〉

- ・ 大学に入学するまでの働きかけも大切であるが、それ以上に大学合格後に力をつけさせるための指導の工夫、働きかけが必要。
- ・ 大学に受かっただけでOKなのではなく、何を育てるかというプロセスが重要。
- ・ 難関大へのひたむきなチャレンジ精神もこの学校の伝統ともいえる。
- ・ 私立高では大胆な教育課程を編成している学校もある。参考とすべき点もあるのでは。
- ・ OBとのネットワークを活かし、進学意識を高めるための起爆剤となるような試みを考案してみてもどうか。(講演、体験談、模擬授業、授業参観など)
- ・ 授業の進度や内容における教師間のバラツキを解消するための組織的対策が必要。  
(教師間での授業参観、授業研究、意見交換、教材の共有、生徒の授業アンケートなど)



- ・ 本来、学習は自分でやるべきもの。ベースさえしっかり身につけば、次は応用への橋渡しの指導を工夫し、主体的学習のノウハウを伝えていけば良いのでは。
- ・ 学年によっては、小テストを継続することで基礎力を定着させ、そこから意欲を引き出し、結果として成績をアップさせている例もある。

学校評議員の皆様には、課題解決に向けた沢山のヒントをいただきました。今後の運営に役立てさせていただきます。有り難うございました。